

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30年 2月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500273		
法人名	社会福祉法人 呉ハレルヤ会		
事業所名	グループホーム ベたにあ		
所在地	広島県呉市中通四丁目9番17号 (電話) (0823)32-5985		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=3490500273-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年2月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームベたにあは、認知症の進行を緩やかにする為、下記のサービスにこだわっています</p> <ul style="list-style-type: none">・呉市の中心地である立地の良さを活かして、買い物や散歩、夏祭りへの参加等、積極的に外出を支援します・特別浴槽がある為、重度の入浴介助が必要になっても対応出来ます・認知症の方は、赤や黄色が判別しやすいと言われており、「〇〇色の椅子に座って下さい」と、色の指示をすると理解されやすいです。その為、フロアを中心に赤いソファを置いています・「尊厳を守る介護」を行う為、丁寧語を意識し、日々のケアに取り組んでいます

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>呉市の中心地に位置し、交通の便が良い場所にあるグループホームである。住環境は、利用者と共に 行う掃除により清潔に保たれている。周辺には商店街があり、祭りや活動等を通じて地域と良好な 関係を構築している。 協力医療機関との連携はもとより、地域の在宅医とも良好な関係を築いており、必要に応じて訪問診 療を受けることが可能である。 また、市の委託事業として行っている認知症カフェの開催や、幼稚園児及び児童養護施設の子供達と の交流を積極的に行いながら、当法人と出会えて良かったと思って頂けるような支援を日々心がけて いる。職員全員が、「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」という理念に沿った行動 及び言動ができるように、日々自己研鑽に励んでいる事業所である。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「人にしてもらいたいと思うことを人にもしなさい」という法人理念を実行する為、2ヶ月に1回のミーティングや内部研修会等で共有し、どの様に現場で活かしていくか話し合っている。又、職員は、裏面に法人理念を記載した名札を身につけており、朝礼において、皆で唱えている。	2ヶ月に1回のミーティングで理念や考え方を共有し、実践できるように努めている。 「人にしてもらいたいと思うこと」は人それぞれ異なる場合もあるが、職員それぞれがその思いを重ね合わせながら、チームで理念に基づいた行動ができるよう尽力している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近くの商店街への買い物や公園への散歩、理美容室の利用、「呉みなと祭」のパレードの見学や地域の夏祭りへの参加等、積極的に外出をしている。外出時には、地域の方との挨拶や会話が自然に交わされ、地域の方が相談に來所する事もあり、当施設として出来ることを通して、交流が始まっている。又、地域の幼稚園児が敬老の日やハロウインの時期に來所し、歌や踊りを披露したり、入居者から歌や手芸作品をプレゼントした交流や、クリスマスに児童養護施設の子供達がキャロリングに來る交流もあった。	同一建物内にあるカフェを、地域住民との交流の場として活用している。 また、商店街・幼稚園・児童養護施設等との日常的な交流を継続的に行いながら、地域の一員として互いが協力し合える関係の構築に向けて、日々努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	当施設1階で開設しているレストランにパンフレットを置いて、問い合わせに対応出来るよう心がけている。 又、レストランにおいて、月に1回「認知症予防カフェ」を開催し、認知症についてのミニ講演会や「塗り絵」、近隣の楽器店の方による音楽療法を行い、地域の方が参加している。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、定期的に運営推進会議を行い、入居者のサービス状況等を報告している。「認知症予防カフェ」で音楽療法を行ってもらっている近隣の楽器店の方に参加してもらい、参加者からの質問や意見はサービスに反映させ、サービス向上に努めている。	現状を報告し相談・検討を行い、頂いた意見等を参考にサービスの向上に取り組んでいる。 日頃から家族・民生委員・行政等との話し合いの場として活用したいと考えている。 今後は、開催日を行事の日と重ねることにより、日常とは異なる雰囲気を経験して頂きたいと考えている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営に関して疑問があれば質問をしたり、報告をする等、機会があれば市町担当者に連絡している。 又、認知症アドバイザー資格を持つ職員が、市が実施する地域住民向けの認知症理解講座に、講師として協力している。	運営推進会議を活用し、地域包括支援センター及び市町担当との関係構築を図っている。 また、相談する担当者を固定することにより、早期に協力関係が構築できるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>内部研修会を設けたり、職員同士の声掛けを行うようにしている。玄関の施錠については、夜間の場合により施錠することあり(日中は、ほとんどない)。</p> <p>認知症ケアの専門知識を持つ職員を中心に、落ち着いた気持ちで穏やかに過ごせる様、入居者の精神面でのケアに努めている。</p> <p>又、外部研修に参加した職員の報告書を職員間で共有している。</p>	<p>認知症介護指導者からの指導及び外部研修を活用しながら、職員は身体拘束について正しく理解し、日々のケアの中で実践を重ねている。</p> <p>ミーティング等を活用しながら、気付いたことを職員間で共有し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内外部研修会において、虐待に関する定義や行為等を学習する機会を設けている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>内外部研修会において、権利擁護に関する制度等を学習する機会を設けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、書面や口頭等で十分な説明を行い、理解・納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情受付窓口の設置は、契約時に説明し、玄関前にも閲覧出来る様にしている。</p> <p>2ヵ月に一回開催している運営推進会議に入居者代表として、家族にも参加して頂き、運営状況の報告をしたり、意見を頂いたりしている。</p> <p>又、法人が運営する地域相談センターでは、地域住民だけでなく家族等も相談しやすい環境を整えるよう努めている。</p>	<p>毎月、写真と手紙を家族に送り、担当職員から生活状況等の情報を伝えている。</p> <p>家族が面会に来られた際に、要望や意見等を聞き、頂いた要望や意見をミーティング等で検討し、反映する仕組みを構築している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にミーティングを開き、職員の意見を聞いたり、提案書をもって職員より提案する機会を設けている。それらにより、課題が見つかった際は、当施設全体のケアの質の向上に活かしているよう努めている。 又、年に2回行う「目標管理シート」にて、「法人・施設等に対する要望」を自由記述できる欄を設けている。	日々の雑談を通じて、職員の心の変化を読み取るようにしている。 必要に応じて、職員から意見や提案を聞く機会を確保し、定期的なミーティング等を活用し、意見や提案を検討し、反映する仕組みを構築している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を年2回以上行い、各職員が抱えている悩みや意見を聞く機会を設けている。 又、目標管理シートを使用する事で、各職員が目標を設定して、それを上司がサポートしながらキャリアアップ出来るよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部では、初任者・中級と段階を踏んでの研修を行い、外部への研修には積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	外部研修会や法人内各事業所による研究発表等で、サービスの質を深めている。 又、外部の施設職員の研修を受け入れ、サービスの質の向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来るだけ多く丁寧語でコミュニケーションを図ったり、新規利用者の情報を職員間で確認している。利用契約に至るまでの期間に、管理者や計画作成担当者だけではなく、介護職員も自宅や病院等の他施設に伺い、話の場を確保したり、利用者が話しやすい環境となるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居前は家族等からも情報収集を行い、入居後の生活に反映出来るよう努めている。又、気になる点等は早期解決を目指している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>同法人の居宅介護支援事業所や小規模多機能ホームのケアマネジャーと共に相談しながら、本当に必要なサービスを提供出来るよう努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>「できる・できない」、「好き・嫌い」、「得意・不得意」、「やってみたい」、「食べたいもの」等をアセスメントし、入居者一人ひとりに無理のない範囲で出来ることを職員と一緒にしたり、対話をし、その時間を大切にしている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>入居者の当施設での近況を細かく家族等に伝えるよう努めている。又、家族等に月に1度、日頃の当施設での様子を写真に撮り、送付したり、家族等に来所していただく等、話し合う機会を設けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居前に利用していた理美容室や店へ外出が出来る様、計画を立て実施している。又、併設の個別対応デイサービスの利用者とは、日常的に交流しており、馴染みの関係を構築出来るよう努めている。家族等の協力を得て、一時帰宅をする入居者もいる。付き合いのあった近隣の方の訪問を、積極的に受け入れている。</p>	<p>馴染みの人との良好な関係やふれあいが継続できるように、家族及び知人等が来訪しやすい雰囲気が作れるように努力している。主治医・店等の馴染みの場所や人との関係を大切に、記憶や思い出が途切れないように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	体操・レクリエーション等で、個別対応デイサービスの利用者とも交流する機会を設けている。又、利用者同士の関係がスムーズに構築される様、ミーティング等で職員の意見を収集し、検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用が終了した後も、当法人内の居宅介護支援事業所や地域相談センター等において、家族等の相談を受け付ける等、経過をフォローしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の言葉に耳を傾け、行動や表情からも思いを汲み取れるよう努めている。現在、チーム目標として、入居者と職員が相談し、家族にも協力を得ながら入居者の「やりたいことリスト」を作成し、実行している。又、家族等が来所された時は、日常生活の写真を見ていただいたりして伝えている。家族等からも継続して聞き取りを行い、思いの把握に努めている。	日常の何気ない会話を通して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望等の意向の把握に努めている。把握した希望や意向は、「やりたいことリスト」として職員が情報を共有し、可能な限り本人本位に検討し、実現できるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に細かいアセスメントを実施するだけでなく、日常の会話からもこれまでの生活について把握し、家族等からも聞き取りを行い、支援経過等にまとめて、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護日誌やケースファイルの日々の記録や、ケアプラン会議、事故予防ミーティング等を中心に、朝礼や夕礼、その他口頭での申し送りを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月のケアプラン会議で、入居者の希望を尊重したケアや課題について検討し、家族等にも来所時にその内容について話し合い、助言をいただいている。</p> <p>ケアプラン会議前には、掲示スペースに職員の意見が書ける仕組みをとり、会議に参加できない職員の意見も汲み取ることができる。</p> <p>又、課題に対する経過を記録し、モニタリングを行うことで、ケアプランに反映している。</p>	<p>担当者を決めることで、課題やケアのあり方等について、中・長期的な視点で現状に即した介護計画を作成している。</p> <p>毎月開催しているケアプラン会議で、他の職員の意見等を聞くことで、多面的な見方やアイデアを反映しやすい環境を構築している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護日誌やケースファイル、疑問・質問記入表等に細かく記入し、ケアに活かしている。</p> <p>又、排尿状態や入居者の発言についてのモニタリング等を行い、入居者理解を深め、情報共有を図っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別対応デイサービスと共同しながら、幅広く柔軟に支援を行っている。</p> <p>又、当施設1階で開設しているレストランで、定期的にティータイムを設けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の幼稚園児との交流や唄・三味線ボランティアによる演奏会、児童養護施設よりキャロリングの訪問を受け入れている。</p> <p>入居者の友人等が、面会に来ている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力病院の定期往診を月2回行ったり、協力歯科医院の訪問診療を必要時行っている。専門医の受診は、家族等の協力を得ているが、緊急時は当施設で対応している。協力医の24時間対応により、緊急時や夜間の体制を整えている。主治医は、本人の希望に応じている。</p>	<p>以前利用していた病院との関係を大切に、入居後も同じかかりつけ医に訪問診療を依頼される利用者も多い。</p> <p>訪問診療が難しい医療機関への受診を希望される場合は、緊急の場合を除き、家族等に対応を依頼している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	非常勤で看護師を配置し、医療との連携を図っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時に必要な情報に関し、本人や家族等の了承のもと、病院側に提供している。又、退院後の受け入れ体制を整えたり、病院側、特に地域連携室とのカンファレンス等を行い、コーディネートしている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	「重度化した場合における対応に係る指針」を、本人や家族等に説明し、同意を得ている。又、重度化した場合や終末期ケアを踏まえた研修の出席やミーティング等で職員と話し合い、考え方を深めている。特に高齢入居者には、本人や家族等と終末期のあり方について、相談を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方については、契約時に本人及び家族等と話し合いを行い、最良の選択ができるように支援している。面会時には家族等に対して、情報提供や話し合いを行いながら、変化する思いに対応できるように取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	マニュアルを作成し、定期的に研修等を行っている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	消防署と連絡を取り、指導・助言のもと防災訓練を定期的に行っている。又、警備会社と災害時のことに関し入居者や職員と、避難先について確認を行っている。	消防署及び警備会社等を活用しながら、定期的に災害訓練を行っている。初期消火の重要性を職員全員が理解し、火災報知機が鳴ると、消防署及び警備会社に自動で連絡されるので、すぐに消防隊が駆けつけることができる体制を構築している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人情報の取り扱いは、慎重に行っている。 一人ひとりの習慣や生活、環境などを把握し、声掛けの配慮、入浴時や排泄時の羞恥心に対する配慮も心がけている。	日々の関わりのなかで常に言葉遣いを意識し、会話のなかで誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を常に実践している。 職員同士であっても、同様の対応ができるように、日々の会話のなかでも言葉遣いを意識しながら業務を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が外出を希望している時は、出来る限り体制を整え付き添いをしたり、バリデーション技術を用い、訪室してマンツーマンで話を聞いたり、繰り返し説明する等、一人ひとりに合わせた対応を心がけ、満足のいく日常生活を送れるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームとしての決まりごとはあるが、一人ひとりの生活リズムを考慮し、入居者のペースに合わせた支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合った入居者の好みの服を職員と一緒に選び、着用出来るよう支援している。 又、希望者は、訪問美容や近所の理美容室へ職員付き添いのもと利用している。 化粧水や乳液で、居室の鏡台や洗面台の鏡を見ながら肌を整えたり、眉毛をかいたり口紅を塗ったり等、化粧を楽しまれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	法人の栄養士が献立を作成している。 簡単な食事の準備・片付けは、職員と一緒にいたり、職員と一緒におやつ作りをされたり等、楽しんでいただいている。 又、利用者の体型や状態に合わせた椅子に座っていただき、食事が食べ易いよう工夫している。	栄養士が献立を作成し、簡単な調理・食器洗い等を、利用者と職員が一緒に行っている。ティータイムには、同一建物1階のカフェに移動し、お茶や会話を楽しんでいる。 使用している椅子は、利用者の身体に合わせて高さが異なり、食事が食べやすいように工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士による栄養管理や、食事量や水分摂取がチェック出来る体制を整えている。水分摂取量については、協力医に確認している人もいる。夜間のトイレの後等の飲水は、職員が声掛けをして、お茶をすすめている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後に口腔ケアを行ったり、出来る限り入居者自身で行えるよう支援している。義歯のある入居者は、必ず外して口腔ケアを行っていただき、夜間は各々義歯洗浄剤に浸けて保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	当施設には3ヶ所にトイレがあり、車椅子でも対応できるスペースを確保している。入居者の状況に応じた配慮に努め、日中や夜間の排泄状況を確認しながら、リハビリパンツと夜間のみパットを使用したり、失禁パンツのみを使用する等、一人ひとりの習慣や状況に合わせた柔軟な対応を心がけている。	排泄表・日誌等の記録を利用し、適宜声掛けや誘導を行うことにより、排泄の自立に向けた支援がなされている。 布パンツ・パット・リハビリパンツ等を活用しながら、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた柔軟な支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分を摂取してもらう為に、細やかな声掛けや見守りを心がけている。 日曜日以外のほぼ毎日、併設の個別対応デイサービスへ移動し、交流の時間において、体操やレクリエーションを行い、身体を動かす機会を設けている。 又、出来る限り外出の機会を確保している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	個別に見守り、介助をしながら支援している。基本的には午後からの入浴としており、順番は、利用者の希望に合わせている。	週に2回の入浴を基本とし、要望等があれば回数を増やしている。 入浴を楽しむことができるよう、自宅で過ごしていた時に使用していた、シャンプー・リンス・ボディソープ・洗身タオル等を使用し、個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりのペースの把握に努め、入居者の状態に合わせ、休息をすすめる等行っている。又、室温や湿度にも気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師が中心となり、情報を交換している。又、誤薬や飲み忘れがないように、職員2名で服薬のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	掃除・洗濯等は、出来る限り入居者自身で行うよう、声かけや見守りをしている。又、食事の片付けやティータイムのメニュー聞き取り等、一人ひとりが役割を持てるよう努めている。おやつ作りやレクリエーションの参加を、楽しみにされている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調や天候等を考慮して、職員と一緒に外出し、希望に応えられるように努めている。短時間でも、当施設周辺の散歩や他拠点への物品の返却等、外の空気に触れ、気分転換できるような心がけている。又、近くの公園への外出やドライブを兼ねて遠くへ出掛けることもある。	散歩・買い物・行事（初詣・花見）等、なるべく戸外にでかけることができるような支援を行っている。商店街のイベントや夏祭り等にも積極的に参加し、家族や地域の人々とのつながりが、維持できるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとりの能力に応じた対応をしている。お金を所持している入居者は、所持金額を出来る限り職員が把握している。又、紛失した場合の家族の了承も得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持参している入居者を含め、希望があれば、自由に電話出来るようにしている。手紙のやり取りを楽しみにしている入居者もいる。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が作成した壁画や手芸作品を掲示し、季節に応じた空間作りをしている。	介護計画に利用者個人の役割を明記し、共用空間の掃除を、利用者と職員が毎日行っている。季節を感じることができるよう、花や飾り等を活用しながら、清潔で居心地のよい空間づくりができるように努力している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアにはソファを置き、入居者同士が会話をしたり、くつろげるスペースを設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室によって大きさや形が違い、また、本人が使い慣れた筆筒やベッド等の家具やテレビ、布団等を持ち込み、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。又、利用者自身が自身の部屋と認識する為の番号は、やわらかい色使いとしている。	カーテンやエアコンは設置されており、使い慣れたベッドやタンス等の大切にしていたものを活かしながら、利用者にとって居心地の良い居室になるように努力している。年を重ねるごとに、写真や飾り等が増え、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	食事の準備や片付け、洗濯干しや洗濯たたみ等、自身で出来ていることは行っていただけるよう、個別の対応を心がけている。又、歩行器を使用していただくことで、出来る限り自立した生活が送れるよう努めている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームべたにあ

作成日 平成30年2月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		運営推進会議にてイベント時の様子を写真や動画で報告しているが、実際の現場を見て頂いた事がない。	運営推進会議の際、交流等の様子を生で見せて頂く事で、よりグループホームへの理解を深めて頂く。	1階カフェでのティータイムや、幼稚園児等地域との交流等のイベント時に運営推進会議を開催し、イベントの様子や利用者の様子を見て頂き、実際の交流の様子を知って頂く。	6ヵ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。